

## 編集後記

5月、関西では、新型インフルエンザという大嵐が吹き荒れた。神戸で初患者が出たかと思うと、またたく間に関西一円にひろがった。民博も周囲の学校にならい、いち早く休館の措置をとった。長い休校をよこごび、新型インフルエンザに親しみをこめて「ブタかぜ」とよんだ子どもたちがいる反面、様々な問題も引き起こした。

民博でも終盤を迎えていた特別展や共同研究会が中止となるなど影響は大きく、市民の方がたにもご迷惑をおかけした。特別展は期間延長で予想以上の来館者を迎えることができたが、今も影響は残っている。

大嵐の去ったあとの関西人の反応も素早かった。休校や休館がいっせいに解除された朝、前日には咳をするものはばかられた通勤・通学列車からマスクは消え、何ごともないかのような日常が戻っていたのである。

今の特集は旅する神がみ。移動という点で新型インフルエンザとひっかけようとしたのだが、「不謹慎」といわれそうでした。(庄司博史)

### 次号の予告

## 特別展「自然のこえ 命のかたち」

月刊みんぱく

2009年8月号

第33巻第8号通巻第383号 2009年8月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1  
電話 06-6876-2151

発行人 西尾哲夫

編集委員 久保正敏(編集長) 佐々木史郎 庄司博史  
中牧弘允 信田敏宏 山中由里子

協力 財団法人 千里文化財団

制作 京都通信社

印刷 市蔵図書

\*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館企画連携係にお願いします。

\*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

## みんぱくウィークエンド・サロン 研究者と話そう

●予定時間 14時30分から15時30分(予定)。

●常設展示場観覧料が必要です。

\*都合により、予定を変更することもあります。

国立民族学博物館(みんぱく)の研究者が、来館された皆様の前に登場します!

「研究について」「調査している地域(国)の最新情報」「展示資料について」などなど、話題や内容は千差万別!

どんどん質問もおよせください。展示場でお待ちしています。

8月の開催

8月2日(日)

話者: 樫永真佐夫 (民族社会研究部准教授)

話題: ベトナム西北地方の黒タイの家

場所: 展示場内休憩所

8月9日(日)

話者: 野林厚志

(文化資源研究センター准教授)

話題: 百年來の凝視

場所: 中国地域の文化展示



「亀の甲」型家屋の解体

8月16日(日)

話者: 日高真吾 (文化資源研究センター准教授)

話題: 被災文化財を修復する

場所: 企画展示場B

8月23日(日)

話者: 吉田憲司 (文化資源研究センター教授)

話題: 新しいアフリカ展示が出来るまで

場所: アフリカ展示

8月30日(日)

話者: 齋藤 晃 (先端人類科学研究部准教授)

話題: アマゾンで暮らす

場所: 常設展示場入口



### 交通案内

●大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分

●阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車、徒歩約15分(茨木方面からは、もっとも近い「自然文化園・日本庭園中央」バス停で下車できるバスが1時間に1本程度あります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください)。

●自家用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。

●タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてきます。

●みんぱくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>

